「馬と人が協働する場―西埜馬搬にみる馬や人のつながり―」

望月亜依

馬搬、相互的な馴化、共存、コミュニティ、レジリエンス

要旨

本稿は、馬で林業を営む西埜馬搬の活動を通して、馬と働く仕事現場では何が起こっているのか、そしてその現場で生まれる人のつながりが西埜馬搬にどのような意味を持つのかについて明らかにすることを目的とした研究である。

第 1 章では本稿の目的や、それに至った背景を述べる。第 2 章では、馬と人がこれまでどのような歴史を歩んできたかについて、第 3 章では馬搬について先行研究を用いながら示す。第 4 章では馬と人の関係に関する先行研究、第 5 章ではアグロエコロジーから見た馬搬の意義について、循環、レジリエンス（回復力）の観点から記述する。第 6 章ではフィールドワーク先である西埜馬搬について、第 7 章では調査期間、調査方法、調査協力者、調査の際の倫理・安全上の注意といった調査概要を述べる。第 8 章では、西埜馬搬の現場や西埜家における調査の結果と分析について記述する。第 9 章では、調査の結果と分析を総括し、馬と人の関係、人々の関係、そしてそれが西埜馬搬にとってどのような意味を持つのかを考察する。

西埜馬搬では、馬と人が相互的に馴化し、馬と人という互いの特性を生かしながら仕事をしていることで共存・協働が成り立っていた。また、西埜馬搬における馬と働く場では、人と人が出会い、つながり合う場所としても機能しており、一度衰退した馬搬を、その関係人数を増やしながらコミュニティを形作っている点で、馬搬や馬と共に働いて暮らすことに興味を持つ人々のコミュニティのレジリエンスを高めているともいえる。馬搬という山を必要以上に傷つけない施業により自然のレジリエンスを損なわないだけでなく、多岐に渡る活動によりコミュニティのレジリエンスまでも高めることができているのである。このようなレジリエンスを高めることは、持続可能な林業として、また馬と働くことに良さを感じた人々の理解が増えることを表しており、馬搬が続けられ、発展していくために有効だと考えられ、西埜馬搬、ひいては馬搬や馬と働く場の今後にとって重要な意味を持っているという結論に至った。